

別添1 (様式)

令和4年度県立津山工業高等学校 学校評価書

校長 高林 康徳



1 自己評価

I 評価結果
(別紙参照)

II 分析・改善方策

- 目標設定の際に、昨年度の関係数値（現状）を見ながら今年度の評価を行うようにすべきだ。
- 新しい取組にチャレンジし、そのことがわかるような工夫が必要だ。
- 国公立大学の合格者数などの目標に対する評価は、単純に合格者数による評価ではなく、プロセス（目標達成に努力した過程）を評価するようにすべきだ。
- 地域との連携と保護者・地域への情報発信については今後も継続することが大切だ。
- 部活動への参加が低迷しており、学校をあげて活性化していくことが必要だ。

2 学校関係者評価委員名

- 中村 政弘（株式会社オーエヌ工業社長）
- 沼 泰弘（つやま産業支援センター事務局長）
- 居原田 洋子（美作大学美作短期大学部幼児教育学科教授）
- 真木 茂（同窓会副会長）
- 清水 誠治（P T A会長）

3 学校関係者評価

- 本校女子生徒の身だしなみについて、同窓生から心配する声が上がっている。指導の充実が必要だ。
- オープンスクールや出前授業など中学生や小学生への本校の魅力発信については、津山市内だけでなく周辺の郡部にも広げ、志願者を増やす取組をしてはどうか。
- 地域の専門学校との連携を強化してはどうか。
- 地元企業から、「求人しても本校卒業生の応募が何年もない。」という声を聞く。どうしたら地元に残ってくれるようになるか、津山圏域工業会としても本校と一層の連携を図りたい。

4 来年度の重点取組（学校評価を踏まえた今後の方向性）

- 服装・頭髪指導、現状を踏まえた遅刻・欠席への指導の充実。
- PBLの充実、特に「課題研究」の工夫。
- 地域と連携した魅力ある授業づくりの推進。
- つやま産業支援センター・ステンレスネットワークとの協力関係強化。
- 地元企業・自治体、中学生・保護者等、地域のステークホルダーへのタイムリーな情報発信。